

近代中国民衆宗教の書籍ネットワーク考

重慶合川会善堂慈善会刊本目録

論文要旨

明清時期の中国では、儒教・仏教・道教三教混交の道德を説く善書や布教パンフレットが数多く刊行された。とりわけ一九世紀以降扶乩という神降ろしで得た乩示に基づいて新たな善書が作成され、鸞堂や新興の民間宗教慈善団体を通じて広く出版されて中国各地に普及した。しかしながら、このような善書や布教パンフレットを出版する担い手の姿については、資料の制約から探ることは難しく、その出版活動の全体像はこれまでほとんど明らかにされてこなかった。

本稿では、重慶北碚区図書館の所蔵する合川会善堂慈善会という善堂の出版物を分析し、四川東部の県城にある一つの善堂が行う出版活動の様相を跡づける。それにより、会善堂では鸞堂と同善社という二つの異なる宗教的系譜に基づいて書籍が収集され、教団支部間の情報共有が同善社の宗教ネットワークに基づく宗教パンフレットの出版と流通によって可能であったことを明らかにした。

キーワード【同善社、扶鸞、善書、出版、清末四川】

小武海 櫻 子

はじめに

明清時期、中国の民間にて数多くの善書が刊行されてきた。なかでも清末の善書は、主に神降ろし（扶乩あるいは扶鸞と称する）⁽¹⁾によつて得た神仙の乩示を書きとめる形式を主流としていることから、宋明の善書と異なる「新善書」とも称される⁽²⁾。それは、扶乩を行う乩壇（善堂、鸞堂ともいう）⁽³⁾が担い手となつて民衆を教導するためパンフレットとなるだけでなく、清代民間教派や二〇世紀初頭に生まれた新興宗教慈善団体の教説を伝える媒体ともなり、地域を越えて刊行された。このため、それらは近代中国の「扶鸞宗教運動」の展開を探ることのできる重要な史料として分析されてきた⁽⁴⁾。

近年、このような善書形式の民衆宗教文献が活発に影印出版されているものの⁽⁵⁾、その宗教文献を出版する側に眼を向けてみると、出

版から流通に至るプロセスはこれまでほとんど言及されてこなかった。二〇世紀初頭の中国に現れる仏教居士・道士による新興教団や民衆教団については、王見川やポール・カツツの分析によつてそれらの刊行物が北京や上海の租界といった都市の書店にて販売されたことが明らかとなっている。なかでも同善社は清代青蓮教の流れを汲む民間教派から生まれた代表的な新興宗教慈善教団の一つであるが、信徒となる中国知識人が北京の天華印書館（開設時期…？一九二七年）や上海の明善書局（一九三一〜一九四一年）の設立と経営の発展に密接に関わっていたとされている。⁽⁴⁾当時のエリートの支持を得て、中国各地で数多くの宗教文献を刊行したとされるものの、同善社の出版活動の実態は資料の制約のため把握が困難であり、各支社で流通する出版物の全体像についてはなお検討が不十分であると言えよう。

そこで筆者は、二〇〇四年九月より二〇一二年の間、重慶市北碚区図書館において資料調査を行ったところ、民国時期の重慶府合川県に「合川会善堂慈善会」（以下、会善堂と記す）と称する善堂によつて重版あるいは刊刻された一群の善書・布教書類（以下、会善堂刊本と記す）がまとまつて保存されていることを確認した。⁽⁵⁾会善堂は、合川の善堂であるとともに、「会星号」と称する同善社の基幹支部組織の一つである。本稿で会善堂刊本を分析することによつて、近代中国における民衆宗教が自身のネットワークを利用した宗教文献の流通を背景に展開していたことを明らかにすることができ

るであろう。

はじめに、基礎作業として会善堂の性格及び出版活動について見てゆき、北碚区図書館が収蔵する会善堂刊本をその内容ごとに分類したものを提示する。そして、会善堂刊本の刊行を手掛かりに、同善社と結びついた善堂による善書流通の様相の一端を明らかにしたい。

一 会善堂の出版活動

合川県の諸史料に現れる会善堂は、一九一六年に重慶（四川省東川道。本稿では重慶と記す）の合川（清代は合州、今の合川県）における士人ら六〇〇名が集つて設立した慈善会としての姿である。その形成過程については拙稿⁽⁶⁾にて明らかにしたが、繰り返し述べると、体制変革後の合川において、会善堂は、民国初期の福祉機能の低下した公局に代わつて民間の慈善団体が急速に発展してゆく中で生まれた慈善団体の一つであつた。しかしながら、会善堂の極めて特異な点として、その背景に鸞堂・同善社という二つの異なる宗教的背景を具えていることが挙げられる。清咸豊末年から光緒年間にかけて、太平天国・大足教案とつづく騒乱にある中で、会善堂は、合州にて民衆教化を行った広元・広慧（光月老人）の系譜に由来し、清末四川の各地に現れた儒壇や皇壇と称する鸞堂の一つであつた。民国期においても、県城内の古聖寺を拠点として、その一階に「皇

壇”の牌位を、二階に“天地君親師”の牌位を奉り、坐功と称する修養や扶鸞、追善供養といった儀礼を行ったとされている。⁽⁷⁾

さらに、一九一〇年代に同善社に取り込まれ、清代青蓮教に由来する民間教派の支部の一つとなつてゆく。同善社の前身である札門は、⁽⁸⁾もともと青蓮教一三代祖師楊還虚から教えを受けた四川広安人黎晚成が同治二（一八六三）年に設けたものであり、その道統が袁世河、胡慧貞、彭廻龍へと受け継がれたとされる。一九〇九年に重慶永川人彭廻龍が札門を継承すると、永川県に本拠地となる洪信祥号を設けて四川東部を布教し、一九一七年に北洋政府内務部に「同善総社」が批准されるまでの間、急速な勢いで中国各省の主要都市を中心に支社を拡げ組織化していった。一九一二年から一三年にかけて、四川東部の諸県で先天八号と称する八つの基幹支部が設けられるが、会善堂もその一つに数えられた。慈善団体であると同時に、同善社の合川における支社「会星号」として、同善社の草創期より涪陵・南充・江北といった四川東部の管轄を担っていたのである。

合川県城内には、会星号としての事務所があるほか、県城東南の草街郷にある古聖寺を宗務所とした。古聖寺・事務所・慈善会にはそれぞれ責任者がおり、各責任者を号首・善長・会長と称した。また堂内で執り行われる祭祀の責任者は香灯、信徒は弟子や壇友などと呼ばれた。信徒となるためには加入儀式があり、入社者は老師の推薦を受けたのち、恩職と称する位階上位者によつて扶鸞で決定された壇名をもらい、「天」の字輩を授かったという。⁽⁹⁾ここから、会

善堂が扶鸞や同善社の宗教儀礼などを行う宗務所、メンバーの交流の場である事務所、慈善団体の三部門から成っていたことが分かる。

一九一五年の成立から活動停止となる一九四〇年までの間に、会善堂が刊行した善書類は、管見の限りおよそ一三一点を確認できる。その内容は多岐にわたり、同善社の教祖や信徒が著したパンフレット七点、他の民間教派の經典やパンフレットと思われるもの八点、善書類五五点（鸞文を含む）、儒教の義理を説いたもの一七点、仏教經典類六点、道教經典類二八点、医学書五点、啓蒙書四点、その他一点、がある。これらのなかで会善堂の信徒自らが著したもののはほとんどなく、会善堂の信徒が県内で版木を収集し、堂内で重刊したものが多い。このほかにも県外の同善支社から寄贈された善書や布教パンフレット、雑誌類といったものがある。会善堂の活動を略述した『合川会善堂慈善会弁法書』（以下、『弁法書』と記す⁽¹⁰⁾）によれば、一九一八年に同善書社を設けて管理人を雇つて版木を保管したとある。会善堂の各事業が基本的に会員の無償奉仕によつて成り立っている一方、善書については雇人による管理を行い、慎重に取扱っていたことが分かる。

印刷の方法についてみると、まず善書の版木には会善堂側で新たに刻したものと、信徒の集めた版木がある。会善堂に版木を提供して印刷を希望する場合、会善堂の執事人が古い善書を検査して破損状態を調べ、随時に梓工を雇い補完して印刷した。⁽¹¹⁾また、県内にあ

しながら印刷されたという⁽¹²⁾。版木の所在元を明確に分けていたことから、各同善支社の間で版木の貸し借りが頻繁に行われていたと考えられる。

費用についてみると、ほとんどの刊本の封面には「版木は合川会善堂が布施によつて刊刻したものであり、寄贈したものはみな版木の費用を取らない（板存合川会善堂慈善会捐刻、凡送者、不取板賃）」という断り書きが記されている。善書は、執事人が取捨選択して数百冊を印刷して定期集會に信徒へ配つたことから、その印刷代は信徒から徴収しなかったという意味であろう⁽¹³⁾。このことから、会善堂の出版事業は、信徒の布施や会款（会善堂に納める定期的な会費）をもとに行われたことが分かる。

閱善書社の管理する書庫では、会善堂刊本を經典類・格言類・聖諭類・伝説類・図説類・觀世文類に分けて保管したという。その装丁は、基本的にどれも漢装本の中本、厚手の黄土色紙を用いて表紙を改装したものが多く、紙質は粗悪である。表題は、刷り題簽、墨書による書き題簽、および題簽なしの直書きのいずれかを付している。刊本には、（一）封面に「板存合川会善堂慈善会」と記載されたもの、（二）封面や刊記がなく、北碚区図書館目録に「合川会善堂慈善会重印本」と注記されたものがある。『弁法書』には会善堂が収集した「各種善書底板目録」を載せており、本稿では刊記のない場合も「各種善書底板目録」に拠つて会善堂刊本と見なした。さらに、北碚区図書館目録に会善堂重印本と記されながら原本に刊記

がなく、『弁法書』にも書名が確認できない刊本については、単に当該図書館目録に拠り、同じく会善堂刊本として扱うこととする。会善堂が重刊したもので原版の作成年代が比較的明確なものうち、会善堂の会員が県内外で収集したと思われる善書の版本を時代順に列すると、下記のように清初期から一九三〇年代まで幅広い年代の刊行物が扱われたことが分かる。

- 『悟性窮源』 順治一八（一六六一）年
- 『濟度本願真經』 康熙五（一六六六）年
- 『參同契闡幽』 康熙八（一六六九）年序
- 『色戒錄』 康熙三五（一六九六）年
- 『文昌帝君功過格』 雍正二（一七二四）年 胤序
- 『麻科合璧』 乾隆五（一七四〇）年
- 『文昌化書』 乾隆一二（一七四七）年
- 『関帝宝訓』 乾隆四七（一七八二）年
- 『金仙證論』 乾隆五五（一七九〇）年
- 『慧命經』 乾隆五六（一七九四）年
- 『金剛經伝灯真解』 嘉慶元（一七九六）年、同治五（一八六六）年序
- 『性命微言』 嘉慶一〇（一八〇五）年
- 『家庭合璧』 嘉慶一〇（一八〇五）年
- 『儒門語要』 嘉慶二二（一八一七）年
- 『奏善真君靈籤』 道光六（一八二六）年

- 『関帝謨訓集注』道光一六（一八三六）年
 『覺世真經本』道光一八（一八三八）年
 『明聖經註釈』道光二〇（一八四〇）年
 『指路宝筏』道光二〇年
 『聖賢実学』道光二九（一八四九）年
 『退思子師説』道光三〇（一八五〇）年
 『療飢良方』咸豐四（一八五四）年
 『觀音夢授真經』咸豐七（一八五七）年
 『感応篇』咸豐一〇（一八六〇）年
 『玄祖真經』同治三（一八六四）年
 『戒色篇直講』同治三（一八六四）年
 『三三婦一』同治三年
 『經濟尋源』同治四（一八六五）年
 『三教心法』同治九（一八七〇）年
 『二科必読』同治一〇（一八七一）年
 『清静經図注』同治一一（一八七二）年
 『好生篇』同治一三（一八七四）年
 『種梅心法』光緒二（一八七六）年
 『廻瀾吟草』光緒五（一八七九）年
 『広生要旨』光緒九（一八八三）年
 『道德經註』光緒一〇（一八八四）年
 『天津功過格諧音読本』光緒一二（一八八六）年
 『学庸詮解』光緒一六（一八九〇）年
 『養生保命録』光緒一六年
 『急救応験良方』光緒一七（一八九一）年
 『終身宝』光緒二六（一九〇〇）年
 『万仏縁経』光緒二九（一九〇三）年
 『訓女快読』光緒三〇（一九〇四）年
 『内経秘訣』光緒三〇（一九〇四）年
 『関帝十二戒規』光緒三四（一九〇八）年
 『仙仏真伝』民国二（一九一三）年
 『万教帰原』民国五（一九一六）年
 『九経註解』民国六（一九一七）年
 『祈雨正宗』民国六年
 『中学参同 悟性窮源 太乙精華』民国七（一九一八）年
 『桃花源伝奇』民国七年
 『六祖壇経』民国八（一九一九）年
 『色門棒喝』民国九（一九二〇）年
 『身世準繩』民国一〇（一九二一）年
 『復真十要』民国一〇年
 『四字便蒙学校課本』民国一一（一九二二）年
 『続千家詩』民国一一年
 『求地真訣』民国一一年
 『治家模範』民国一五（一九二六）年

『呂祖釈義 大学聖經』 民国一九（一九三〇）年
 『救世直言』 民国二一（一九三二）年
 『福寿根基』 民国二二年
 『崇実学論』 民国二二（一九三三）年
 また、会善堂刊本のうち扶乩によって著された鸞書には、主に次のようなものがある。

『奏善真君靈籤』 道光六（一八二六）年
 『関帝謨訓集注』 道光一六（一八三六）年
 『関帝宝訓』 道光一六年
 『覚世真経本』 道光一八（一八三八）年
 『桃園明聖経註釈』 道光二〇（一八四〇）年
 『指路宝筏』 道光二〇年＊
 『観音夢授真経』 咸豊七（一八五七）年＊
 『玄祖真経』 同治三（一八六四）年＊
 『経済尋源』 同治四（一八六五）年
 『万仏縁経』 光緒二九（一九〇三）年
 『関帝十二戒規』 光緒三四（一九〇八）年＊
 『観音解冤経懺』 宣統三（一九一一）年＊
 『万教帰原』 民国五（一九一六）年＊

＊は明清の民間教派の中核的な宗教思想である無生老母失郷兒女神話が確認できるものを指している。これらは、会善堂が清末の鸞堂から同善社の会星号へと転移するなどの段階で入手されたものかは詳

らかではない。ただし、『玄祖真経』に記載されているように、清末四川の儒壇にもまた無生老母信仰の影響がみられることから、清末四川東部の鸞堂と民間教派の教説の境界は限りなく曖昧であったと考えられる。

なおこの他に、北培区図書館蔵のもので、（一）会善堂の刊記がなく同善社と直接関わらないものの、『大道真伝』や『普勸善言』、『八徳須知』のように他地域の同善社信徒が重刻したことのある善書、（二）同じく刊記がなく民間教派や鸞堂に関係すると思われる経巻・鸞書は、計七一点を数える。主なものを中心に挙げておく。これらの善書のなかには同善社の非信徒が購入できるものもあることから、会善堂以外にもたらされた可能性がある。（一）は、北培区図書館の請求番号）

『大道真伝五巻 附心法芻言』〔大道真伝〕万曆四三（一六一五）年序、孫汝忠撰／済一子傳金銓註／一〇行二四字／計三七頁／〔心法芻言〕「洗心室思道記」…昆明陳榮昌著／「性道説略」…保山楊觀東著／計一一頁〔民線二・宗教（235/2235）または47971〕
 『救世鍼砭』道光元（一八二一）年叙、變元子／咸豊元（一八五二）年合明子重刊序〔子部一・未線・修養教誡〕
 『諸葛武侯行兵遁甲金函玉鏡図四巻』同治間刊／題諸葛亮著、岳飛序／排字版〔子部二・術数類・陰陽五行〕
 『何仙姑宝巻 上下』光緒二三（一八九七）年、重刻本／江西省城／一部一冊〔集部二・曲類・彈詞〕

『戒淫宝訓二卷』光緒三〇（一九〇四）年／成都守經堂刻本〔子部一・未線・修養教誡〕

『弥勒下生經全部』光緒三四（一九〇八）年刻／一冊／「西蜀易衡山梓、板存涪州小地名龍洞場」／叙「康熙九年正月二十三日現出此經」〔子部二・仏教・雜纂（礼鑑）〕

『普勸善言』宣統二（一九一〇）年／九行二一字／計八二頁／合州武聖廟刊／卷首「醒迷普勸善言」〔民線一・倫理学（178.9/5527）〕

『觀音解冤經懺』宣統三（一九一一年）、合邑春秋閣〔民線一・倫理学（221/6028.2）〕

『二十四孝図 無數卷』（清）四川書坊刻本〔子部一・修養・教誡〕

『文昌帝君勸孝八反歌 附朱子治家格言』民国二（一九一三年）、江北靜觀場復善堂刊〔子部一・修養・教誡〕

『太微仙君善遇格』民国三年（一九一四年）、合州武聖廟〔子部二・道教・經教〕

『養正初基一卷』民国四（一九一五）年、合川高宅刻本〔子部一・修養・教誡〕

『孔聖枕中記不分卷』民国七（一九一八）年／題雲水道人録／意文堂重刻〔子部二・術数類・雜術〕

『扶乩真伝秘訣十章』民国一五（一九二六）年、郭仁維撰／中西書局石印本〔子部二・術数類・雜術〕

『八德須知』民国一九（一九三〇）年、黄宗瑀撰／合川刻〔子部

一・修養・教誡〕

『伏魔經二卷』民国三四（一九四五）年、姚定一抄本／黄紙〔子部二・道教・經教〕

『海南一勺編（拯溺図説）』民国間刊／鶴洞子輯／合川刊本〔子部一・修養・教誡〕

『百忍文句解』民国間刊／周平初撰、饒国華句解／合川刻本〔子部一・修養・教誡〕

『婦女功過格一卷 三字功過格一卷』民国間刊／合川刻本〔子部一・修養・教誡〕

『吉安道德分会第一次道統講義』民国間刊、題高真子講録／石印本〔子部二・道教・雜纂・別述〕

『太上正氣篇』合川春秋閣／〔碕線 231/5527/31984 または民線二・宗教 235/6028.2 または 47946〕

『関帝明聖經一卷 附関帝靈籤一卷』重慶中西書局、鉛石印本／序・珠江蔭南馬壽喬〔子部二・道教・經教〕

北碚区図書館が会善堂刊本を受け入れるまでには、いくつかの段階を経ている。会善堂刊本には全て「北碚区図書館」あるいは「民生実業股份有限公司図書館」という押印があり、これによつて各刊本の図書機関への受入れ時期をある程度確定することができる。現在の所蔵先である北碚区図書館は、もともと合川出身の著名な実業家盧作孚が設けたものである。一九二六年に盧作孚が重慶で民生実業股份有限公司を創業し、翌二七年に北碚夏防局局長に着任した後、一九二

八年に北碚の関帝廟に設けた峡区図書館を始まりとする。さらに、盧作孚は重慶に民生輪船公司を設立した後の一九三四年に、同公司内の書報閱覽室を拡張して民生公司図書館を設けた。日中戦争時期、峡区図書館は中国西部科学院図書館に合併され、その分館である民衆図書館が北碚に設けられた。そして一九四五年一月、民衆図書館・中国西部科学院図書館・民生公司図書館が統一されて今の北碚区図書館となった。⁽¹⁴⁾このことから、「民生実業股份公司図書館」が民生公司図書館の印章だとすれば一九三四年〜四五年の間に受入れたものを指し、「北碚図書館」の印章は一九四五年以後に受入れたものを示していると判断できよう。一九三〇年代においてもなお会善堂の活動が確認できることから、これらの図書機関は会善堂から会善堂刊本を直接受け入れていた可能性が高い。

二 同善社の刊行物とその流通について

会善堂刊本の最も注目すべき史料の特徴は、従来ほとんど知らなかった同善社内部限定の刊行物を所蔵している点である。同善社と関係する刊行物には次のようなものがある。

『觀竅說』…雲南昆明同善分社。

『聞法述記』…民国八（一九一九）年序、北京同善社社員劉声元撰。『三三歸一』（後述）に所収。

『善譚』…民国九（一九二〇）年、山東煙台同善分社。

『三教心伝』…民国九年、四川綿竹同善分社重刊。
『当头一棒』…民国二三（一九二四）年、吉林賓県同善分社序。
『息戦』…民国二一（一九二二）年。万国道德会の刊行物だが、北京同善社社員劉声元が序を付している。

このほかに、北碚区図書館には、会善堂に関わる記載はないものの、雲南昆明同善社の刊行物も確認することができた。これらもまた教団内部のネットワークを利用して収集された布教パンフレットであろう。

『双修漸法述記』…民国一三（一九二七）年、陳榮昌撰／一九二六年、平常居士述／四周単辺／計四〇紙／一九二八年、古渝同德堂刊〔民線二・宗教（23571097） または 47968〕

題名…「双修録」／刊記…「丁卯十月三並子陳困叟敬撰並書於昆明翠湖之洗心堂」「戊辰季夏古渝同德堂翻版」

教祖彭廻龍及び彭と姻戚関係にある弟子の賀静安が言述する普渡特伝の秘訣を記したものである。一九二六年に、賀静安が雲南を訪問して昆明同善社のために伝えたもので、翌年昆明の信徒陳榮昌が編纂し、その翌年に重慶の同德堂がこれを刊行した。

『国学専修提要』…民国間刊、楊觀東撰、石印、／一〇行二五字／縦21.1×15.2cm／版心「国学専修提要」／計六七頁〔子部一・雑家類・雑学雑説〕

題名…真我軒道書之五／国学専修提要／陳榮昌書（朱筆）

卷一…国学縁起第一／国学非国学衡第二／歴代学制考第三／国学

当師法三代折中孔孟釐定第四／卷二…国学大学教科第五／国学大学系統表第六／大学教科順序表第七／国学小学教科第八／少学教科順序表第九／応需書籍第十／卷三…随修揮修補修第十一／教授管理校試第十二／学科答問第十三／国学視国力趨重為轉移第十四／興国学即興中国第十五

雲南昆明同善支社の信徒楊觀東の著した著書の一つ。体裁は雲南省図書館蔵の同書と一致する。同善社の義学である国学専修館の教学方針について解説している。

『心法芻言』…前掲『大道眞伝』に所収。

雲南昆明同善支社の信徒陳栄昌の著書。

さて、同善社の刊行物は、どのように出版され、入手可能であったのだろうか。例えば、山東煙台支社の定期刊行物である『善譚』第二期には、出版費用となる布施に応じた山東威海・上海・広州といった沿海地域の支社名を載せている。一つの支社で資金が不足した場合、同善社のネットワークを利用して経費を集め、出版していたことが分かる。それらの刊行物の多くは、まず教祖彭廻龍の許可を必要としたようである。湖南省における同善社の責任者（善長）である彭廷衡は、『湖南節孝録』について彭廻龍に次のような手紙を送っている。

今謹んで出版致します。弟子の盧徳麟および解がちょうど四川に参りますのでお渡しします。師尊の広い慈悲心に伏して乞いますに、どうか節孝の苦勞を哀れみ、事実を確かめ校正し、命

名し序を賜われ、号中の印刷と流通を通じて、みなに修道のおもとがここにあることを知らしめ、さらに天下後世の世道人心に益することができるよう、ご承諾をお願い致します。⁽¹⁶⁾

同書を作成した彭廷衡は、社内に自著の校正と出版・流通できるように彭廻龍に請願しているのである。もし同善社の教説にそぐわない内容を書いた場合、位階降格などの厳しい罰則が科せられた。信徒が自ら著したものや編集した書物は、永川県に送って彭廻龍の許可を得て、それから初めて信徒間に流通することが可能とされたのである。

次に、社内限定の布教パンフレットの入手方法については、雲南同善支社善長の楊觀東が著した『国学詮鏡』⁽¹⁷⁾（一九二五年刊）に詳しい。本書は、楊觀東の自著の販売方法、および代理販売先について説明を残している。まず販売方法について見ると、同善社の学校である国学専修館において楊觀東自身が講義した内容を記す『国学詮鏡』一卷、国学専修館の経営方針を記す『国学専修提要』三巻、および楊觀東による同善社の教説解説書である『毅一子』三巻（一九二〇年）は、いずれも「未入道者（非同善社の者）」もまた購入可だが、営利目的の販売は許さないとしている。また、自著のうちの複製を許可しないものに『誓願通解』（一九二二年刊）・『毅一子』外篇二巻・『祖派掲曉』一卷・『節本弁道須知』二巻（一九二四年）がある。このうち、彭廻龍との往復書簡や自伝を含む『毅一子』外篇二巻は、三層以下の信徒に販売を許可しないとしている。さらに、

同善社の道統を述べた『祖派掲曉』一卷は、その内容の一部がすでに『誓願通解』に挿入されているが、『祖派掲曉』では羅八祖の事績を加筆しており、複製を許すけれども底本は当該書を基準とするよう指定されている。同善社の核心的教説について書かれた書籍については、社内でも位階の低い者には流出を許さず、社外の者に漏れることがないよう慎重に取り扱われていたのである。

雲南のこれらの布教パンフレットを注文購入するための代理販売先には、漢口、南京、江蘇の江陰、浙江の紹興、河南、河南の焦作、山東、広西の南寧、四川の仁寿の省社・県社があり、転売所として北京の天華書館を挙げている。もしも売り切れている場合は、河南・山東の省社で購入すればよいし、南方の者は前述の代理販売所で入手することができる。なお雲南の布教書は雲南各支社で入手することになるという。

以上のように、同善社の刊行物は、教祖彭廻龍の厳密な審査を経てから、各地方の支社の間で出版費用を募って出版され、主要な省社や注文を交付ける支社において販売された。それらは、複製が許される書籍を除いて、信徒のみが社内ネットワークを用いて入手することができたが、内容に応じて限られた位階の者のみが閲覧する出版物も存在した。同善社の刊行物の複製・購入の範囲は厳密に定められていたことから、部外者への販売を認めたものを除くと、それらが非信徒の手に渡るのは極めて困難であったことは間違いない。こうした会員制の情報網は、全国の同善社信徒が互いに教説や情報

を共有する重要な手段ともなったと思われる。このような点から、会善堂重印本と記された、あるいは会善堂の所蔵と看做されている同善社の刊行物は、会善堂が同善社の宗教ネットワークを利用してそれらを手に入れたことを物語っているように。

以上、会善堂の出版活動と同善社の刊行物の流通を見てきた。会善堂刊本を分類するにあたっては、まず同善社の刊行物を列挙して、解説を附した。次に、民間教派の影響を窺うことのできるもの、儒教的道徳を説いたもの、道教・仏教の經典や修養書にあてはまるもの、善書類、医学書、啓蒙書、その他と分けて、その目録一覧を付した。なお北碚区図書館の請求記号も併せて付して閲覧の一助としたい。

三 会善堂刊本目録一覧

注記

(1) 各番号の下に付す書名は、読者が資料を追跡・検索し易いよう北碚区図書館目録に記載された資料名に拠り、別に題名の項目を立てて内題を記す。

(2) 書誌情報は、判明する範囲で題名、題簽、刊行年、撰者、数量、字数(半葉)、匡郭、辺、魚尾、界、書口、版心、紙数、印章、刊記、章立て、解説、備考の順で記す。(一)は、北碚区図書館の請求番号)。

(3) 刊行年は全て西暦で表記し、原著に記された刊行年は()で附記した。又は詳述した刊記(封面や序跋)の記載を参照されたい。

【同善社】

1 『觀覈說』

題名「觀覈說」／題簽なし／一九三三年刊／楊觀東著／一冊／一〇行二二字／縦16.7cm×横10.4cm／上下双边／单魚尾／界無し／白口／版心「觀覈說」／計九紙／「民生実業股份公司図書館」印／表紙は藍紙〔子部二 道教・論著・修鍊〕

(刊記) 封面「中華民國二十二年刊刻／觀覈說／板存合川会善堂慈善会捐／刻凡印送者不取板資^マ」。卷末「甲子年九月一六日同善社社員等敬送」。

(解説) 「觀覈說」の著者は、卷末に「穀一子曰、予之觀覈說、為滇社大衆、非為数人也。然尚有数人敝悟予犧牲精力之所失。不已償乎。況即不惜性、誰不愛命。其繼此而奮興者、必大有人在矣。因振筆而為之記。甲子年九月十二日。同善社社員等敬送。」とあることから、昆明同善社信徒楊觀東(法号は穀一子)であることが分かる。楊觀東によれば、「觀覈」は同善社の入門にあたる修養法であり、靜觀を守覈の要訣だとする。卷末に記された刊記から、楊觀東自身がもとと雲南の同善社信徒に向けて一九二四年(甲子年)時に著したものを、後に会善堂が入手して重刊したと見られる。

2 『三三歸一』

題名「太上純陽眞君了三得一經」「聞法述記」「三才帰一三教帰一三期帰一総論」／題簽「了三得一 三三歸一」／一九二〇年刊／不虛撰／一冊／一〇行二二字／縦18.2cm×横11.8cm／上下双边／单魚尾／界無し／白口／版心「了三得一經」「聞法述記」「三三歸一」／計二九紙／「民生実業股份公司図書館」印〔民線二・宗教 23/1021〕

(刊記) 封面「民国庚申年冬月重■／不虛先生著／三三歸一／合川会善堂慈善会諸君捐刻印者不取板資」。「了三得一經」卷末跋「崇正居士賀紹循謹誌」。(聞法述記) 跋「己未歲五月崇正居士賀紹循跋於北京同善總社」。「三三歸一」「大清同治三龍年秋月三候日帰一子薰手敬叙」。

(章立て) 「了三得一經」修性直指天元章第一、立命直指地根章第二、規中直指元關章第三。／「聞法述記」發願、守戒、皈依、修持。／「三三歸一」三才帰一三教帰一三期帰一総論

(解説) 本書は、別個の三篇が合本されたもので、会善堂が重刊したものである。『了三得一經』は修養法を説いたもの。『聞法述記』は、一九一九年の同善社信徒賀靜安の跋文によれば、同年夏に賀靜安が北京で道友と接談した口述の大意を道友劉声元が編んだもので、初学者のための修養を説いたものであるという。『三三歸一』は、同治三(一八六四)年の帰一子の叙によれば、師の不虛先生と友人道源・道成とともに三三歸一の理を議論したものを編んだものである。不虛先生は「赤縣人甲巳氏」を指し、『三教心伝』を得て普渡

世人を立願したという。

3 『三教心伝』

題名「三教心伝」／題簽「三教心伝」／一九一九年序／一冊／一〇行二四字／縦17.5cm×横11.9cm／四周双辺／単魚尾／界有り／白口／版心「三教心伝」／計三四紙／「民生実業股份公司図書館」印／図書館目録に「合川慈善会印」と記す〔民線一・宗教23360283または47954〕

〔刊記〕八景宮侍御汪圓通序「中華民國己未年十二月朔二日序於蜀西晋熙邱氏衍義堂」。重刊三教心伝序「辛酉冬本社社員江啓心時年七十沐手敬序」。附記「四川省綿竹県同善分社邱煥章壽蓀甫時年六十有六自記於翔符寺倒影池上之東軒」。

〔解説〕四川綿竹県同善社の善長邱煥章の序（一九二〇年）によれば、四十年前（一八八〇年頃）に道士張図洛という者から『三教心伝』の鈔本を贈られ、今は三教昌明の時機に当たるとため刊印したという。県内北里の文興壇にて扶鸞を行い、八景宮侍御汪圓通の飛鸞を通じて一九一九年に序を著し、道友江啓心の校勘を経て刊行された。本書は「先天大道」の修養法（心伝）を説いたもので、著された年代は不詳。会善堂は同善社を通じて入手したのだろう。

4 『息戦』

題名「息戦」／題簽「山東九歲神童江希張著」／一九二二年刊／江希張撰／一冊／一三行二三字／縦18.8cm×横12.0cm／四周双辺／単魚尾／界無し／黒口／版心「息戦」／計三四紙／「民生実業股份

公司図書館」印〔民線一・宗教2333741または47996〕

〔刊記〕封面「民国十一年歲在壬戌三月下浣重鐫／息戦／板存合川会善堂慈善会凡印送者不取板費」。重刊息戦序「中華民國七年五月蜀人劉声元序於京師」。序「民国五年十二月万国教務聯合会總理美国李佳白」。序「中華民國六年四月嗣漢六十二代天師正一真人江西貴溪張元旭」。自序「中華民國四年十一月山東歷城江希張」。跋「同里曹官莊劉永和、永康、思渭、振興、楊春和」。跋「同邑李九齡」。

〔解説〕『息戦』は、万国道德会を創始した山東歴県人江希張が九歳の時（一九一六年）に著したもので、第一次世界大戦の終息と世界の宗教的協和による和睦を説いている。一九一七年同善社信徒劉声元の序によれば、一九二二年に劉声元は道友とともに道德学社の江希張の父江寿峰を訪れ、江寿峰より本書の序を頼まれたという。会善堂は、劉声元序文の付された版本を入手して重刊したのだろう。

5 『善譚』

題名「善譚」／題簽「善譚全本」（手書き）／一九二〇年刊（第一期）、一九二二刊（第二期）／煙台同善社編／一册合本／一二行二字至一二三不等／縦16.8cm×横11.5cm／四周双辺／単魚尾／界無し／白口／版心「善譚第一（二）期」／計一八紙（第一期）、計四一紙（第二期）／「民生実業股份公司図書館」印〔民線一・宗教2339627または47986〕

〔刊記〕題「中華民國九年春／同帰於善／朱洋藻題」。〔第一期〕序「中華民國九年三月歲次庚申仲春豐潤張錫純撰」。跋「中華民國九年

歳次庚申孟春既望志道姚明仁謹跋」。(第二期) 膠東道吳道尹頌詞「辛酉孟春之月吳興吳永敬頌」。警察庁張庁長叙「中華民國十年七月陰歷仲夏下浣豐潤張錫純撰」。姚志道善長誌言「中華民國十年歳次辛酉仲夏夏至志道姚明仁誌」。

(章立て) (第一期) 題、祝詞、序、発刊詞、善、同善釈名、感応篇説善摘講、善條、善典、善聯、善訓、善語、善銘、善願、勸善歌、跋。(第二期) 膠東道吳道尹頌詞、警察庁張庁長叙、姚志道善長誌言、道静先生題句、聞篠原珊先生善譚記、登州同善分社祝辞、董煥庚先生序、高恩鴻先生祝詞、樂助本期善譚姓氏、道、貴德尊道以重性命説、神形論、戒貪文、清慎勤三字箴、好人歌、不知足歌、中字談、殺生談、回生宝訓、一世歌、知足歌、息忿歌、笑世篇、悟道偈、呂祖心経、消災増良方、男女訓、戒全慈歌、三教真諦、勸世人、酒色財氣、歎世万空歌、善惡智愚見解之不同、勸世俚歌、鍼文武官員之心、財産之大小争讓観、醒世碑記、四象訣、心造七事不齊解説、十惡正報図説、善惡果報之由来、七筆勾、帰一訣、正心篇、吾之藥味十六條、小言四句、善屑一包。

(解説) 民国時期の新興宗教慈善団体は自己の宣伝と情報共有のため盛んに定期刊行物を刊行したが、山東煙台同善社が編んだ『善譚』もまたその一つである。内容としては、同善社を称賛し「善とは何か」について等の議論や慈善活動記録を載せている。膠東道道尹吳永敬の頌詞、煙台警察庁庁長張錫純、煙台同善社善長姚明仁の序跋、他所の同善社信徒の祝辞を載せている。

6 『万教帰原』

一九一六年編、一九二九年重刊／一一行二三字／縦19.5cm×横12.0cm [万教帰原] 計一五紙、〔警世木鐸〕計八紙〔民線二・宗教236/6028 または47956〕

(刊記) 註「時值中華民國五年季夏月望六日起九日散在蜀川龍女寺」。卷末跋文「國民革命軍第二十八軍第十一師二十一旅旅長兼任渠県知事熊玉璋謹識／民國十八年歳在己巳仲秋上浣」。跋文「四川蓬溪県劉治国道派明全道号了塵子作／四川蓬溪県劉治国作／中華民國十八年季春上浣」。

(解説) 『万教帰原』と『警世木鐸』の合刻。『万教帰原』は、一九一六年陰曆六月六日から九日にかけて、広化壇という仏壇が四川定遠県龍女寺で扶鸞を行って編み出したものである。同書は、内容からみて同善社信徒の手によって著されたと考えられ、青蓮教の金公林依秘から自立した普渡門や水公彭德源から雲南に伝わった帰根門の菜食主義を「旁門(異端)」としてはっきりと批判し、儒教を正宗とする教えに回帰することを説いている。

7 『当頭一棒』

一九二四年序、曹需恩撰／一〇行二四字／縦18.3cm×横10.1cm／四周单边／計一八紙〔民線二・宗教236/5516 または47949〕

(刊記) 序「甲子年十六日賓県慈善会会長馬桂林識」「当頭一棒／曹需恩自述」。

(章立て) 六字養生法、六字真言、圓覚伝燈法、探精華法、三百六

十大周天転運法、三百六十天周天吐納法、大道歌、呂祖百字碑、老
祖真經歌、正陽祖師伝重陽祖師五篇口訣。

(解説) 吉林賓泉同善分社による修養法を紹介したパンフレット。

次に挙げる書籍は、その多くが同善社成立以前に作成された道教
の経巻である。静坐と称する同善社独自の修養法を学ぶにあたり彭
廻龍が十分重視するよう言い伝え、社内で重刊された事例もあるこ
とから、特に同善社の項目に入れた。とりわけ乾隆期の全真教道士
で内丹法の要訣をまとめた柳華陽の『慧命経』『金仙証論』は、同
善社のなかで静坐の功夫の要に位置づけられている。⁽¹⁸⁾

8 『慧命経』

題名「最上一乗慧命経」／一七九四年、柳華陽撰／一〇行二五字／
縦18.6cm × 横11.4cm／四周双辺／白口／計五九紙／会善堂刊（目
録に記載）〔民線一・宗教 231/4747 または 47934〕

(刊記) 叙「時乾隆甲寅冬初庚辰科会元欽賜探花及第御前侍衛詰封
通議大夫原任浙江黃巖鎮總兵官詰封武顯將軍署理安慶協副將孫廷璧
叙。慧命経自序「乾隆甲寅夏湖伝盧柳華陽序於皖城忠潔庵中」。目
録「古雲安雲笠鄧微續重刻」。

9 『金仙證論』

題名「華陽金仙證論」／一七九〇年序、柳華陽撰〔民線二・宗教
233/4747 または 47931〕

(刊記) 「乾隆庚戌春洪都後学無霞道人高双景序」。「乾隆辛亥歲重陽
月靈臺庵僧妙悟序」。金仙証論慧命経合刻序「道光丙午孟冬望月閩

中正青山人梁靖陽謹序」。卷末「嘉慶四年端陽前五日華陽著於北京
仁壽寺」。

10 『唱道真言』

一七二三年跋、一九一九年重刊／縦20.1cm × 横11.2cm／四周双辺
／下辺黒口／計五七紙〔民線二・宗教 235/6028.6 または 47969〕

(刊記) 封面「中華国（ママ）己未季冬月重刊／唱道真言／板存合
川会善堂慈善会代募捐刻凡印者不取板資」。唱道真言序「青華老人
筆」。後序「法■洞陽鶴隴子謹序」。跋「謹序雍正元年歲次癸卯九月
望日吉／水金丑洞全真弟子一万清和薰沐拜題」。跋「乾隆戊戌夏仲
越崗郁教寧薰沐敬跋」。

11 『中学参同』

題簽「中学参同・悟性窮源・太乙精華」／一九一八年重刊／〔悟性
窮源〕一六六一年（順治辛丑歲）希真子序、涵谷子著／九行二一字
／四周双辺／計八五紙〔碁線 230 道 / 235/5527/31945 または民線
二・宗教 233/6028.4 または 47977〕

(刊記) 封面「中華民國七年戊午重刊／中学参同／板存合川文明街
会善堂凡印者不取板資」。

12 『五養秘訣 五更家書』

題名「吳真人授門人李詰坐法五養秘訣」／一九三三年重刊。〔五養
秘訣〕一九三〇年序／一一行一〇字／縦15.4cm × 横9.9cm／四周双
辺／計一一紙／〔五更家書〕一一行二一字／上下单辺／計二三紙
〔民線一・宗教 235/6028.4 または 47959〕

〔刊記〕封面「民国二十二年六月夏孟重刊／五更家書／板存合川会善堂慈善会凡印者不取板資」。序「中華民國庚午年清和月／後学張奎齡謹識」。跋「庚午秋分日後学吳文義謹識」。

〔解説〕『五養秘訣』は、乾隆期に大道を悟った吳真人がその門人李詒に長生法である坐法を授け記録したもの。『五更家書』は、夜中五更の間に西域王母が降凡して向善を説いたもの。二篇が合刻されたものである。

13 『玉符直指注釈』…一九二七年重刊、終南洞天普潤真人述。〔碕線235/8034/31979〕

14 『修道真言』…民国間刊、宋白叟玉蟾子輯。〔子部二・道教・論著〕

【民間教派】

15 『龍華經四卷 附宝籤二卷』

題名…「古佛天真収円結果龍華宝籤卷一」

題簽「龍華宝籤上集」「龍華宝籤下集」／一九一八年重刊／二冊／七行一八字／縦20.2cm×横12.0cm／四周双辺／単魚尾／界無し／白口／版心「龍華宝籤」／「民生実業股份公司図書館」印〔子部二・仏教・雑纂〕

〔刊記〕封面「民国戊午年重刊／龍華宝籤／板存合川慈善会印送者自備紙張不取板資」。封面裏「奉旨頒行」。卷一卷首「大明礼部尚書馬目強奏九華山僧悉縁奉／龍華懺經一部進呈／御覽万歴二十七年閏

四月欽奏」。刻龍華懺序「道光二十九年己酉歲八月中浣旦立」。卷末「龍華宝歴一部合共一千四百五十七礼」。

〔章立て〕〔卷一〕刻龍華懺序、重刊龍華宝懺序、古佛天真収円結果龍華宝経卷一、拏香開懺第一、靈山普請第二、恩光普照第三、龍王護法第四、洗滌身心第五、解冤釈結第六、発宏誓願第七、五戒精嚴第八、報天地恩第九、報国王恩第十、報父母恩第十一、報師長恩第十二、嘆世無常第十三、淨六根業第十四、去十二病第十五、服応病業第十六、龍華開放第十七、縦横自在第十八、懺悔九祖先第十九、懺度餓鬼惡道第二十、懺度胎生第二十一、懺度卵生第二十二、懺度濕生第二十三、懺度化生第二十四。

〔卷二〕懺度黑暗地獄第二十五、懺度奈何地獄第二十六、懺度無邊地獄第二十七、懺度剝心剝眼第二十八、懺度刀山地獄第二十九、懺度寒冰地獄第三十、懺度鋸金解地獄第三十一、懺度火坑地獄第三十二、懺度油鍋地獄第三十三、懺度滑油地獄第三十四、懺度磨碾地獄第三十五、懺度換腸地獄第三十六、懺度塵埋地獄第三十七、懺度血池地獄第三十八、懺度枉死地獄第三十九、懺度転輪地獄第四十、古仏帰宮第四十二、法缸暗度第四十三、垂光接引第四十四、収円結果第四十五、礼懺功德第四十六、円満回向第四十七、経旨総覽第四十八。

16 『観音夢授真経』『孚佑帝君後五品仙経』

題名…「観音夢授真経」「孚佑帝君後五品仙経」／題簽「夢授経註解」／一八五七年序／一冊／〔観音夢授真経〕八行二二字〔五品仙

經」九行一三字／縦17.3cm×横10.2cm／四周双辺／単魚尾／界有り／白口／版心「觀音夢授真經」「五品仙經」／計二八紙／「民生実業股份公司圖書館」印／会善堂刊（目録に記載）〔民線二・宗教221/6028〕

〔刊記〕觀音夢授真經原序「■年丁巳秋未悟眞子叙於楚襄安樂窩中」。（章立て）〔觀音夢授真經〕觀音夢授真經原序、觀音夢授真經、修真道必本真說。／〔孚佑帝君後五品仙經〕後五品仙經自序、觀心去妄品第一、見性保命品第二、尋源窮根品第三、玄関嚴妙品第四、陽神出現品第五。

〔解説〕『觀音夢授真經』は、無生老母神話を残す経巻であり、觀音菩薩が九二殘霊の大夢を醒ますよう説いている。『孚佑帝君後五品仙經』との合刻である。

17『指路宝筏三卷』
題名「指路宝筏註釈上巻」／題簽「共参本／指路宝筏／上中下巻」三冊／一八九一年序、一九二〇年重刊〔民線二・宗教225/6028〕または47867-9〕

〔刊記〕封面「民国庚申年孟春月慈善会重刊／指路宝筏／板存合川会善堂慈善会凡印送者自備紙張不取板資」。跋「宝城王成居士叙於洗心齋抱一山房」。（仁部）至聖広元仏仁部序「光緒十七年辛卯歲」（章立て）知部・仁部・勇部

18『玄祖真經』
題名「無上玄祖真經」／題簽「共三本玄祖真經」殘欠、存三冊／一

九二三年重刊／八行二一字／縦15.8cm×横12.1cm／四周双辺〔民線二・宗教231/60282または47879/81〕

〔刊記〕封面「民国癸亥歲孟夏月重刊／玄祖真經／板存合川会善堂慈善会凡例印送者自備紙張不取板資」。叙「無上奠定乾坤救劫玄經三教合一原叙／関羽頓首謹序」。序「三教統宗原序」。序「無上玄祖真經三會伝道四柱擎天五炁朝元總序／関羽頓首奉」。

〔解説〕『玄祖真經』は、成都に発し、同治三（一八六四）年の永川県にて無生老母信仰と関帝降凡救劫の教えを説いた三會堂（後に三教堂に改名）によつて作成された経巻である。

つづいて、次の四点は、清末合州に伝わった儒壇の手による経巻である。

『仙仏真伝』は、清末の合州老陽山において布教を行った広元（一八二三年生／一八五一年没、名は玉桓、字は純長道、号は冷一仙師、聖元広元古仏）が扶乩によつて著した経巻である。『三教心法二巻』は、その又従兄弟である広慧（光月老人、またの名を明鏡老人、広慧古仏益二仙師とも称す）の手による経巻である。また『万仏縁経』は、広慧の流れを汲んだ蓬東という地の広済（妙化広済古仏）が扶乩によつて著した経巻である。『心法備要五巻』は、広慧の一脈を受け継いだとする初陽、真品、洗心、覚悟、一元、存真ら安楽派と広慧の後継の老陽派とが二派に伝わる要諦をまとめたものとされる。会善堂は、清末の鸞堂として活動した時期に広慧らの教えの影響を受け、それらの経巻を受け継いで所蔵していたと思われる。

19 『仙仏真伝』

一九一三年序、赤水純長冷一先生（広元）口伝、明円光月老人（広慧）編／一〇行二七字／四周双辺／計一一〇紙〔民線二・宗教233/9077 または47924〕

〔刊記〕重鐫仙仏真伝源流序「天運癸丑年嘉平月之吉後学弟子湖広張虚靈序於孟寺之養静室」。

（章立て）重鐫仙仏真伝源流序、無源古仏序、阿弥陀仏序、然燈古仏序、清風古仏序、孚佑帝君序、仙仏真伝目録、総序、条目、誦法、包天河洛図、天円地方図、伝丹度世論、八字功過格、心意功過格、空字解、金丹大道源流論、三宝分論、三乗合論、三乗分論、三乗合論、九層功夫、丹語、汝丹経、旁門小術、補遺、仙佛真伝章句直解、響月交通古仏功過格小序、金光古仏空字解、清風祖師註並批、無量度世古仏金丹大道源流論、諸仏諸仙歴年所降丹語、響月交通古仏旁門小術小引及論、救劫天尊敬註。

20 『三教心法二卷 上下』

一八七〇年、光月老人撰／二冊／八行二二二字／縦20.0cm×横12.3cm〔上巻〕四周双辺不等／計八五紙／〔下巻〕四周单辺／計九七紙〔民線二・宗教233/9077 または478623〕

〔刊記〕四書説約序「同治庚午戊月至日赤水明円光月老人自序於知足堂補関楼中」。光月老人跋文。
（章立て）上巻：四書説約卷一。四書説約序、太極統説、総論四子書。下巻：阿弥陀仏祖序、太上道祖序、無量度世古仏序、響月文

通古仏序、円通文尼自在真仏序、明通昭徳自在古仏序、呂祖三教文、真伝の旨卷二。下巻：真伝要言統刻。

21 『万仏縁経』

民国間重刊。題名「上皇臨證三教合一 大乘法至玄至妙万仏縁経」／題簽「万仏縁経共三册卷下」／残欠、存一冊／九行二三行／縦19.0cm×横12.0cm／左右双辺／单魚尾／界無し／白口／版心「万仏縁経」／計七六紙〔民線二・宗教231/6028 または478701〕

（章立て）統御三界広慧古仏承縁明道品第五、統御三界広慧古佛抽添温養品卷六（已巻）、統御三界広慧古佛移爐換鼎品第七（午巻）、統御三界広慧古仏開天出神品第八（未巻）、妙化広濟古仏結縁成道品第九（申巻）、妙化広濟古佛留神顯法品第十（酉巻）、妙化広濟古仏文修武備品第十一（戌巻）、妙化広濟古仏功円證果品第十二（亥巻）。

22 『心法備要五巻』

民国間重刊／二冊／九行二二二字／縦18.8cm×横11.8cm／四周双辺／計一〇一紙〔民線二・宗教233/6028 または478601〕

〔刊記〕跋「安樂弟子洗心、一元、存真敬跋」。

（章立て）無源古仏序、一化古仏序（樂陽弟子敬註）、釈迦牟尼仏序、太上道祖序、文昌帝君序、孚佑帝君序、無量度世古仏序、響月交通古仏序（救劫天尊）、闢癸聖元広元仏序、統御三界広慧古仏序、〔上冊〕三教真髓文、二極理氣論、性命陰陽辯、〔下冊〕結丹功用解、聖神妙化驗、附女丹経、安樂跋語。

【儒教の義理】

- 23 『続千家詩 上下巻』：一九二二年重刊、梁溪晦齋学人撰。〔子部一・未線・修養教誡〕
- 24 『学庸詮解二巻 附觀音夢授經二巻』：一八九〇年（光緒庚寅）叙、一九二二年重刊、敦厚主人著、中和山人渾渾子述。論語・大学・中庸の注釈書。〔子部一・未線・修養教誡〕
- 25 『坤範輯證韻語』：民国間、戴崇德撰。女性の孝行を説いたもの。〔子部一・未線・修養教誡〕
- 26 『春秋全経左伝淫案摘要』：一九二九年、洪心道人録。〔子部一・未線・修養教誡〕
- 27 『崇実学論』：一九三三年重刊。〔子部一・未線・修養教誡〕
- 28 『省体編』：一八三三年刻、張清夜撰。〔民線一・宗教 232/1130 民〕
- 29 『宝聖要録』：一九一九年、鄧原菴撰。〔民線一・宗教 232/1774〕
- 30 『治家模範』：一九二六年莫致中序、（清）朱用純撰。〔民線一・宗教 233/2572 または 47993〕
- 31 『儒門語要』：一八一七年（嘉慶丁丑）序、倪元坦撰。〔民線一・宗教 233/2714 民〕
- 32 『菜根譚全集』：一九一五年序、洪自誠撰。〔民線一・宗教 233/3420 または 47978〕
- 33 『治家格言釈義』：一九二二年、戴翊清撰。〔民線一・宗教 233/4303 または 47994〕

- 34 『省察要語』：一九二四年。〔民線一・宗教 233/6028.4 または 47968〕
 - 35 『易理合参』：一九一八年、無極真人撰。〔民線一・宗教 233/8014 または 47967〕
 - 36 『郷守輯要』：一八四九年（道光二十九年）序、許乃釗撰。〔民線一・宗教 333/908/8 民〕
 - 37 『聖賢実学不分巻』：一八四九年（道光二十九年）序、唐道宗撰。〔子部一・未線・修養教誡〕
 - 38 『退思子師説』：一八五〇年（道光庚戌）東川古渝之院署序、一九一八年重刊、汝南荅村居士撰。〔子部一・未線・修養教誡〕
- 【仏教】
- 39 『彌陀経解』：一八四四年（道光甲辰）序、民国間刊、了根解義鉛印本。〔民線一・宗教 221/1747〕
 - 40 『六祖法宝壇経』：一九一九年重刊、法海撰。〔民線一・宗教 221/3438〕
 - 41 『濟度本願真経二巻』：一八八一年重刊。〔民線一・宗教 221/6028.1〕
 - 42 『金剛経伝燈真解一卷』：一七九六年（嘉慶元年）序、一八六六年（同治五年）龍門居士敦五氏跋、一九一八年重刊。〔子部一・仏教・経・般若部 または民線一・宗教 221/6028.3〕
 - 43 『達摩宝伝 上下巻』：一九二四年、悟真子補述、陳士紳等校閱。〔子部一・仏教・総録・史伝または民線一・宗教 230.92/6018〕

- 44 『観音解冤経懺』：一九一一年、民国間重刊。〔民線二・宗教 231/6028.2〕
- 【道教】
- 45 『道德経註四卷』：一八八四年（光緒十年）序、（清）黄裳注釈。〔民線二・宗教 231/4490〕
- 46 『長春祖師語録』：一九二五年。〔民線二・宗教 231/6028.12 または 47953〕
- 47 『呂祖指玄編』：民国間刊。〔民線二・宗教 231/6028.13 または 47970〕
- 48 『参同契闡幽上下卷』：一六六六年朱元育序、伯陽真人著、許啓邦校刊。〔民線二・宗教 232/0835 民〕
- 49 『清静経図註』：一八七二年（同治十一年）西安余明善叙、樂山子序、一九一八年重刊、水精子註解。〔碯線 231/1291/319.49 または 民線二・宗教 231/6028.8〕
- 50 『九陽関註解』：民国間刊、中和先生著、飛龍先生註。〔子部二・道教・論著・修鍊〕
- 51 『九経註解』：一九一七年重刊。仏道・民間経文九種の合刻。〔民線二・宗教 231/6028.4〕
- 52 『玉皇心印経注釈一卷』：一九一八年、（清）定觀通虚子彙輯。〔子部二・道教・論著（修鍊）〕
- 53 『率性闡微一卷』：民国間刊、玄州老人素陽子撰、自然子注解。〔子部二・道教・論著〕
- 54 『彙纂玉皇心印妙経大全』：民国間刊、通虚子撰。〔民線二・宗教 231/3721〕
- 55 『道学信伝』：清光緒間刻、民国間刊。〔民線二・宗教 232/6028.2〕
- 56 『性命微言』：一八〇五年（嘉慶十年）劉沅叙、一九一九年重刊、伯陽真人撰。〔民線二・宗教 234/2674 または 47997〕
- 57 『内経秘訣』：一九〇四年跋、至宝齋重刻〔民線二・宗教 235/6028.3〕
- 58 『保命金丹一卷』：民国間刊。〔子部二・道教・論著・修鍊 または 民線二・宗教 235/6028.5〕
- 59 『養生保命録』：一八九〇年（光緒庚寅）序、一九一七年重刊。〔民線二・宗教 233/6028.3 または 47957〕
- 60 『種梅心法二卷』：一八七六年（光緒二年）叙、臥雲撰。〔民線二・宗教 233/7310 または 47868-9〕
- 61 『養伝集二卷』：民国間刊。〔民線二・宗教 235/6028.7 または 47973〕
- 62 『身世準繩』：一九二〇年重刊。〔民線二・宗教 235/6028.9 または 47984〕
- 63 『二科必読』：一八七七年跋。〔民線二・宗教 235/6028.11 または 47990〕
- 64 『呂祖修行十願釈義』：一九三〇年叙、准東亦如居士撰。〔民線二・宗教 236/0047 または 47960〕

【勸善書・鸞文】

- 65 『終身宝』：一九〇〇年叙、一九三〇年重刊。重慶各地の乩文訓戒を集めたもの。〔民線一・宗教 235/6028.10 または 47989〕
- 66 『奏善真君靈籤不分卷』：一八二六年（道光庚子歲）序、一九三〇年重刊、（清）宝山弟子陳應星録。〔子部二・術数類・雜術 または民線二・宗教 218/6028.2〕
- 67 『関帝謨訓集注二卷』：一八三六年合陽喻長庚、民国重刊〔子部二・道教・経教、または民線二・宗教 (232/6028) または 47923〕
- 68 『関帝宝訓一卷』：一七八二（乾隆壬寅）湖南桂東敦厚堂序、一七九一年（乾隆五十六年）序、一八三六年（道光十六年）刊、一冊。〔子部二・道教・経教〕
- 69 『覺世真経本證訓案闡化編十六卷』：一八三八年（道光十八年）序、一九二五年重刊、徐謙撰、四冊。〔民線二・宗教 231/2808 民〕
- 70 『桃園明聖経註釈』：一九一八年重刊、胡印田註釈。〔民線二・宗教 231/4726 民〕
- 71 『桃園明聖経』：民国間刊。〔民線二・宗教 231/6028.5〕
- 72 『三聖経直講』：一九二八年。〔民線二・宗教 231/6028.6 または 47932〕
- 73 『三聖宝訓』：民国間刊。〔民線二・宗教 231/6028.11 または 47944〕
- 74 『関聖帝君十二戒規』：一九〇八年（光緒三十四年）龍門芳長氏・渝江克守子・赤水慎密子・渝北破迷子叙、一九一八年重刊。

〔子部二・道教・戒律〕

- 75 『感応篇句解』：一九三九年。〔民線二・宗教 231/6028.10 または 47937〕
- 76 『太上玉笈求劫金燈感応篇新註』：一八六〇年（咸豐庚申）序、一九一七年重刊。〔民線二・宗教 231/6028.3 または 47918〕
- 77 『聖諭戒規』：一九一四年。〔子部二・道教・戒律〕
- 78 『関帝聖靈籤』：民国間重刊〔民線二・宗教 218/6028〕
- 79 『文昌化書』：一七四七年（乾隆十二年）重慶府合州序、〔徵驗記〕一八三六年（道光十六年）合陽鄧世謙撰、民国間重刊。〔子部二・道教・経教〕
- 80 『文昌孝経』：民国間刊。〔子部二・道教・経教〕
- 81 『文昌帝君功過格八卷』：一七二四年（雍正二年）序、一八九六年渝北跋文、一九一八年重刊。〔子部二・道教・戒律〕
- 82 『文昌帝君警俗勉孝歌講義』：民国間刊。〔子部二・道教・経教〕
- 83 『呂祖因果説一卷』：民国間刊。〔子部二・道教・経教〕
- 84 『色戒録』：一六九六年（康熙丙子）叙、一八四三年（道光二十三年）朱虎臣序、一九一八年重刊、（清）傅伯辰撰。〔子部一・未線・修養教誡〕
- 85 『色門棒喝』：一九二〇年序、一九三一年重刊、康維恂撰。〔子部一・未線・修養教誡〕
- 86 『戒色篇直講』：一八六四年（同治三年甲子歲）序、一九二二年重刊、不二子編撰。〔子部一・未線・修養教誡〕

- 87 『正氣戒淫經註案』：一九二八年。〔民線二・宗教 231/6028.7 または 47933〕
- 88 『訓女快読 上下巻』：一九〇四年（光緒甲辰年）援江鄧百川撰。〔子部一・未線・修養教誡〕
- 89 『弟子規一卷』：一九一九年、（清）李子潛撰。〔子部一・未線・修養教誡〕
- 90 『復眞十要』：一九二二年古塩亦如居士序、一九三二年重刊、又天居士編。〔子部一・未線・修養教誡〕
- 91 『天津功過格諧音読本』：一八八七年（光緒丁亥）、（清）黄泰初編〔子部一・未線・修養教誡〕。
- 92 『治世金鍼三巻』：一九三一年。〔子部二・道教・雜纂・雜著雜編〕
- 93 『救世実言』：一九三二年序、王昌杰撰。〔民線二・宗教 235/1064 または 47991〕
- 94 『末劫真経』：一九三三年重刊。〔民線二・宗教 222/6028〕
- 95 『好生救劫編』：一八七四年（同治十三年）貴州刻本、一九三三年重刊、常存敬畏齋主人撰。〔民線二・宗教 231/4046〕
- 96 『救世金箴七種合刊』：一九三〇年重刊、附袁了凡家訓。『三聖経』や訓文七種の合刻。〔民線二・宗教 231/6028.14 または 47983 または民線二・宗教 231/6028.15 または 47985〕
- 97 『醒世図』：一九一八年。〔子部一・未線・修養教誡〕
- 98 『醒迷録』：一九一九年。〔民線二・宗教 233/6028.6 または 47981〕
- 99 『劬勞詩一卷』：民国間刊。〔子部一・未線・修養教誡〕
- 100 『福壽根基』：一九三二年、端陽生編、戒淫を説いたもの。〔子部一・未線・修養教誡〕
- 101 『十殿録』：民国間刊。〔子部二・宗教類・其他宗教〕
- 102 『遊冥速報歌三巻』：民国間刊。〔子部二・宗教類・其他宗教〕
- 103 『敬竜章』：民国間刊。〔子部二・宗教類・其他宗教〕
- 104 『桃花源伝奇一卷四折 懶問天籟一卷一折 劉龍臚填詞』：一九一九年、富順三多寨劉氏叢書重刻本。〔集部二・曲類・伝奇〕
- 105 『五篇靈文』：一九一九年、重陽祖師注。〔民線二・宗教 231/2073〕
- 106 『格言聯璧不分巻』：一八七四年刻、一九一九年刊、（清）金縷輯。〔民線二・宗教 233/8026 民〕
- 107 『繡雲閣』：一九一八年、魏文中撰、八冊。〔民線二・歴史小説 813.7/2641 民〕
- 108 『靈山大路』：民国間刊。〔民線二・宗教 231/6028.16 または 47996〕
- 109 『天津摘要』：一九三三年。〔民線二・宗教 232/6028.4 または 47980〕
- 110 『心伝韵語五巻』：一九二二年、（清）臥雲等撰。〔民線二・宗教 232/7310 民〕
- 111 『經濟尋源九巻』：一八六五年（同治乙丑年）南陽寛空子跋、一

- 九二六年重刊、覺空子校刊。〔民線一・宗教 232/7731 または 47903-8〕
- 112 『惜命安親種子録』：民国間刊、醒迷子撰。〔民線一・宗教 233/1631 または 47950〕
- 113 『迴瀾吟草』：一八七九年（光緒五年）序、何琳撰。〔民線一・宗教 233/2114 または 47982〕
- 114 『新刊七真因果伝二巻』：一九一七年序、龍門後学黄永亮撰。〔民線一・宗教 233/4430 または 47864-5〕
- 115 『福田論』：一九一九年、栄泉黄覚書撰。〔民線一・宗教 233/4475 または 47951〕
- 116 『剛雷劍二巻』：一九一四年序。〔民線一・宗教 233/6028.2 または 47866-7〕
- 117 『祈雨正宗』：一九一七年序、屈履居士撰。〔民線一・宗教 233/7777 または 47928〕
- 118 『自求多福』：一九三一年、念劬子撰〔民線一・宗教 233/8021 または 47995〕
- 119 『日用宝筏』：一九二四年趙際雲叙。〔民線一・宗教 235/6028.8 または 47975〕
- 【医薬書】
- 120 『広生要旨八巻』：一八八三年序、王譚撰。出産に関する医学指南書〔民線一・宗教 235/1001 民〕
- 121 『麻科合璧不分巻』：一七四〇年（乾隆五年）叙、江西郁氏・蕭山謝心陽著、一九二一年重刊。〔子部一・医家類・各科〕
- 122 『醒閨編一卷（升篇）附胎産經驗良方一卷』：一八四五年（道光癸卯年）叙、一九二四年重刊、（清）廖免驕撰。〔子部一・未線・修養教誡〕
- 123 『療飢良方不分巻』：一八五四年（咸豐四年）刻、一九二〇年重刊、（清）英三俊撰。〔子部一・未線・農家〕
- 124 『普濟草約提要一卷 附急救方一卷』：一九二三年、不著撰人。〔子部一・医家類・本草（葯字）〕
- 125 『急救応驗良方不分巻』：一九一九年、（清）費山寿撰。〔子部一・医家類・医方論医案〕
- 【啓蒙書】
- 126 『村学究語』：一九二二年。〔民線一・宗教 233/6028.7 または 47992〕
- 127 『小兒語淺解一卷 附小兒語補逸一卷 老学究語一卷 女兒語淺解一卷』：一九一七年刊、（明）呂近溪撰、（清）李惺撰・周家楨等解。〔子部一・未線・修養教誡〕
- 128 『家庭教育合璧三巻 醒世俚言一卷』：一八〇五年（嘉慶乙丑歲）黄色臣雙序、一九二三年重刊、（清）陸起鯤撰。〔子部一・未線・修養教誡〕
- 129 『養蒙針度 上下巻（含五巻）』：一八八〇年序、（清）虞山潘子声撰。〔經部・附・童蒙課誦〕
- 130 『四字便蒙学校課本』：一九二二年、李庚撰、合川慈善会便蒙学

校刻本〔経部・附・童蒙課讀〕

【風水】

131『求地真訣不分卷』：一九二二年。〔子部二・術数類・相宅相墓〕

註

(1) 酒井忠夫は、清代の善書を(1)清代の代表的な善書である『三聖経』―すなわち『感應篇』・『陰騭文』・『覺世真経』及びその注釈書を含む『古典善書』と(2)清代道光期以降に扶乩によって編まれた「新善書(鸞書)」とに分類している。酒井忠夫「中国・台湾史よりみた台湾の道教」『台湾の宗教と中国文化』風響社、一九九二年、二九〇―三二頁。

(2) 近代中国の扶鸞運動については、主に酒井忠夫『増補中国善書の研究』下(国書刊行会、二〇〇〇年)と范純武「清末民間慈善事業与鸞堂運動」(台湾中正大学歴史研究所碩士論文、一九九六年、後に『清末民間慈善事業与鸞堂運動』博揚文化、二〇一五年出版)によって議論の骨子が整えられたとみられる。その後、善書と鸞書(扶乩で著された善書)の出版文化について分析した游子安『善与人同―明清以来の慈善与教化』(中華書局、二〇〇五年)や近代香港に伝わる乩壇の儀礼や活動に着目した志賀市子「近代中国のシャーマニズムと道教」(勉誠出版、一九九九年)等の研究によって扶鸞運動と善書の華人社会への普及が解明されている。

(3) 例えば、近年刊行されたものに、王見川・林万伝・范純武らが精力的に収集している『明清民間宗教経巻文獻』(新文豊、一九九九年)、『明清民間宗教経巻文獻統編』(新文豊、二〇〇六年)、『中国民間信仰・民間文化資料彙編』(第一輯、第三輯、博揚文化、二〇一一年～二〇一七年)、『近代中国民間宗教経巻文獻』(新文豊、二

〇一五年)、『明清以来善書叢編初輯』(新文豊、二〇一八年)がある。

(4) Paul Katz, *Religion in China & its modern fate*, Waltham, Massachusetts: Brandeis University Press, 2014. 王見川「明善書局と同善社―兼談『玄靈玉皇経』的流伝」『媽祖与民間新興…研究通訊』第一号、博揚文化、二〇一二年。

(5) 会善堂による善書の出版と同善社の関わりについては、フィリップ・クライト(Philip Clart)が二〇〇七年バークレーの国際学術会議において既に示唆している。

(6) 会善堂の成立前史と慈善会成立後の歴史については、拙稿「清末四川の鸞堂と宗教結社―合川會善堂慈善會前史」『東方宗教』第一一号、二〇〇八年、拙稿「同善社の慈善事業―合川會善堂慈善會の軌跡を中心に」『東洋学報』第九四巻第一号、二〇一二年参照。

(7) 合川における会善堂の宗教活動については、吳沢涵「合川會善堂与慈善會簡況」『合川文史資料選輯』五輯、一九八八年。

(8) 礼門から同善社への変化については、陸仲偉『同善社』、社会問題研究叢書編輯委員会参照。

(9) 吳沢涵(一九八八年)、一五五頁。

(10) 『合川會善堂慈善會弁法書』合川會善堂慈善會刊、一九一九年、重慶北碚区図書館蔵。

(11) 『弁法書』、印刷善書類。

(12) 『弁法書』、閱善書社類。

(13) 『弁法書』、印刷善書類。

(14) 江鴻・郭昭華「盧作孚与北碚図書館」『北碚文史資料 北碚開拓者盧作孚』三輯、一九八八年、一三九―一四〇頁。

(15) 『善譚』煙台同善分社刊、一九二〇年。

(16) 彭廷衡「上師尊書」『中和文集』、四三頁、「今謹繕写成書。因弟

子盧德麟及辨入川之便、令其面呈。伏乞師尊広慈悲之心、憫節孝之苦、俯準核正、定名賜序、由号中印流通、俾咸知修道之本在是、且有益於天下之世道人心也。」

- (17) 楊觀東『国学詮鏡』真我軒道書之六、一九二五年、雲南省圖書館藏。

- (18) 陸仲偉『同善社』、九三頁。

本研究は、学習院大学人文科学研究所の若手研究者研究助成による成果として発表したものです。ここに感謝の意を申し上げます。

A Book Network Analysis of the New Redemptive Societies in Modern China: Catalogue of Publications in Hechuan Charitable Association

KOMUKAI Sakurako

Abstract of the Paper:

During the Ming and Qing dynasties in China, a number of *shan shu* and missionary pamphlets were published preaching the morality of the Confucian-Buddhist-Daoist mix of the three religions. Since the beginning of the nineteenth century, many *shan shu* have been written based on the planchette writing, these books were widely published and disseminated throughout China by the phoenix hole (luan tang) and new redemptive society. However, it is difficult to find out the appearance of some members who is responsible for publishing due to the limitations of the material, and an outline of their publishing history has yet to be discerned.

This article analyzes the publication of Hechuan charitable association called Huishan Tang Cishan Hui (合川會善堂慈善會) in the collection of the Chongqing Beibei District Library, and traces the publishing activities of a charity halls in the county town of eastern Sichuan. It reports that books

were collected in Huishan Tang on the basis of two different religious genealogies, the phoenix hole and the Fellowship of Goodness (Tongshanshe), and that information sharing between denominational branches was made possible by the publication and distribution of religious pamphlets based on the Fellowship religious network.

Key Words: redemptive societies, the planchette writing, shanshu publication, Sichuan of Qing dynasties